

NMSH TOPICS

— VOL.10 2017/9月 —



汲田 伸一郎 院長

今月の院長のイチオシ! 『女性診療科・産科』

産婦人科の各領域で高度かつ先進的医療を提供
女性のあらゆるライフステージに寄り添う

内視鏡手術において
高い治療実績を誇り
全国からの紹介に対応

当科では腹腔鏡、子宮鏡を駆使した内視鏡手術に力を入れ、多くの内視鏡技術のエキスパートを擁し、高度な手術を行っています。その技術水準は全国でもトップクラスであり、子宮内膜症や子宮筋腫などの良性疾患のほとんどを腹腔鏡、子宮鏡にて治療しています。特に子宮内膜症においては、独自の診断システムのもと薬物療法と腹腔鏡手術を組み合わせ、患者さん一人ひとりに応じて適した治療を行っています。また、平成24年からは子宮体癌においても腹腔鏡手術を導入しています。

近年では、当科が全国でも先駆的に行ってきた骨盤臓器脱(子宮脱など)に対する腹腔鏡下仙骨靭帯固定術が保険適応となりました。これにより、さらにより多くの方がこの先進的な手術を受けられるようになりました。

不妊症、不育症にも
専門性の高さを発揮
分娩までをサポート

一方、不妊症に対しては、高度不妊治療を担う生殖医療の専門外来を開設し、体外受精・胚移植・顕微授精などの高度生殖補助医療を行っています。

また、不育症(習慣流産)は当科で最も力を入れている診療の一つです。総合病院の利点を生かし、内科(甲状腺疾患、膠原病など)や遺伝診療の専門科と連携を密に取り、集学的な医療を行っています。

そして、不育症の原因の一つである中隔子宮などの子宮形態異常に対しても、子宮鏡手術を行い良い成績を上げています。

不育症の方は何度か流産を経験しており、妊娠しても絶えず不安を募らせておられます。そうした方々をはじめ、当科では妊婦さんに寄り添い、安心して分娩できるよう万全の体制を整えています。



女性が抱える不安や悩みを優しくサポートする



各方面で知識や経験が豊富な医師をそろえている

